

国際化検討会（第5回）提出資料

「2002年外国貿易障壁報告書への日本政府のコメント」について

平成14年4月22日
外務省

- 1．日本政府は、米国通商代表部（USTR）が4月2日に発表した2002年外国貿易障壁報告書に対するコメントを作成し、米国時間16日、在米大河相公使よりカトラー米国通商代表部（USTR）代表補に手交した。
- 2．本件報告書に言及される項目は、米国の貿易相手国に対する関心を過去の経緯とともに包括的に示すものであり、我が国に対し何らかの措置をとることを前提としたものではない。しかしながら、同報告書においては、我が国に関する記述につき事実関係や内容等につき正確ではない点も見られることから、こうした点につき然るべく反論したものである。
- 3．尚、コメント全体は外務省ホームページ www.mofa.go.jp にて閲覧可能である。

（了）

2002年外国貿易障壁報告書への日本政府のコメント（抄）

6．サービス障壁

(2) 自由職業サービス

(ロ) 法律サービス

本年3月19日、閣議決定された、「司法制度改革推進計画」には、特定共同事業の要件緩和等を行うこととし、2003年通常国会に所要の法案を提出する予定である旨記されており、我が国は、弁護士と外国法事務弁護士等との提携・協働を積極的に推進していく見地から適切な措置を講じることとしている。

外弁（外国法事務弁護士）による弁護士の雇用を仮に認めた場合、外弁は日本の弁護士を指揮・命令することにより、実質的に、日本法に関する法律事務を取り扱うことが可能となり、職務範囲を制限した外弁法の趣旨が潜脱されてしまうため、外弁による弁護士の雇用の禁止は、不合理な措置とは考えていない。

外弁による第三国法の取扱いについては、現行法においては、有資格者等からの書面による助言を得ることを要件として許容されており、差別的な制限がなされているとは考えていない。

なお、「特定共同事業」が認められた法改正は1994年である。

日本弁護士連合会の自治に関わる事項については、米側の懸念は日弁連にも伝えているが政府としてこれに干渉することはできない。

(Provisional Translation)

Comments of the Government of Japan on 2002 National Trade Estimate (NTE) Report

6. Service Barriers

(2) Professional Services

(b) Legal Services

The Program for Promoting Justice System Reform, adopted by the Cabinet council meeting on March 19, 2002, includes deregulation of requirements for specified joint enterprises (*tokutei-kyodo-jigyo*) and notes that a related bill will be submitted to the ordinary session of the Diet in 2003. Japan will take appropriate measures from the viewpoint of promoting cooperation and collaboration between *Bengoshi* and *Gaikokuho-Jimu-Bengoshi* (*Gaiben*).

It is not considered unreasonable to prohibit *Gaiben* from employing *Bengoshi* because if allowed, it would mean that a *Gaiben* can practically perform legal business regarding Japanese laws through directing Japanese *Bengoshi*, thereby contradicting the purpose of the Special Measures Law Concerning the Handling of Legal Business by Foreign Lawyers, which limits the scope of business.

Under the current law, *Gaiben* is allowed to perform legal business regarding third-country law provided that *Gaiben* obtain written advice on each issue from competent persons. Japan does not see this as discriminatory restrictions.

The year the law was amended to allow *tokutei-kyodo-jigyo* was 1994.

The requests from the U.S. have been delivered to the Japan Federation of Bar Associations, however, it is not possible for the Japanese Government to interfere in matters related to autonomy of the Japan Federation of Bar Associations.